

文部省特別選定

第41回日本紹介映画コンクール
銀賞・外務大臣賞受賞
優秀映画鑑賞会推薦

伝統工芸の名匠

いのち
木の生命よみがえる

——川北良造の木工芸——



(解説)

木工芸作家・川北良造は1934年(昭和9年)に石川県山中町に生まれ、父・川北浩一に師事して、材料になる木を轆轤(ろくろ)で回転させながら椀・鉢・盆などの丸い器物を削り出す木工挽物技法を習得、さらに氷見晃堂に師事して研究を重ね、伝統的な挽物技法を高度に体得した。

櫻を中心に、桑・楓・黒柿・栃などの素材の特色を生かし、伝統的な筋挽きや各種の象嵌技法に独自の工夫を加え、その堅実な技術を駆使して、現代感覚溢れる清新な作品を発表している。昭和41年、42年、日本伝統工芸展で日本工芸会会長賞受賞。

1994年(平成6年)重要無形文化財「木工芸」保持者(人間国宝)に認定された。この映画は、平成8年の秋から平成9年の夏までの川北良造の8ヵ月に亘る「櫻造りの盛器」の制作過程(木取り・荒挽き・中挽き・仕上げ挽き・象嵌・拭き漆の仕上げ作業及び道具の制作など)を記録したものである。

(内容)

●挽物と山中木工の歴史

轆轤によって材料を回転させ、それに刃を当て削り出し成形する挽物は、指物、くり物と並んでわが国の木工芸の代表的な制作技法の一つである。

その歴史は古く、すでに弥生時代からあったが、奈良時代の正倉院宝物中にはいくつかの合子、盆、高杯などがあり、櫻、檜、桜などで作られているが、これらは轆轤で

作られたものである。挽物が一般に広く普及したのは平安時代で、滋賀県の永源寺町小椋谷には全国の木地師の始祖を祭った有名な神社がある。

石川県の山中木工の起こりは、16世紀の末、この永源寺の流れをくむ越前福井の木地師たちが、大聖寺川の上流の真砂村に良材を求めて移り住んだ時から始まったといわれている。

江戸時代になり、山中が温泉場として栄えると、温泉の土産物として木工品が売られるようになり、これを機に真砂の木地師たちは次々と山を下り、山中の町に定住するようになった。以来山中は木工の産地として発展することになるが、挽物は同地に栄える山中漆器の木地として重要であっただけでなく、独立した木工芸としても古くから名人や名工を輩出した。なかでも木工芸独特の材の魅力とともに、それを飾る多種多様な筋挽き(千筋・ピリ筋)などの技を生み、これが山中木工の特徴になった。



挽物は、材料になる木を選び出すところから始まる

映画「木の^{いのち}生命よみがえる —川北良造の木工芸—」によせて

白石和己

(東京国立近代美術館工芸課長)

石川県山中町は挽物の産地として知られている。挽物では、はじめて人間国宝となった川北良造さんは、この山中にしっかりと腰を据えて活躍している作家である。伝統ある産地にあつて、豊かな自然の中で、黙々と制作を進める川北さんの姿が印象的である。

映画は、櫛材を用いて盛器を制作してゆく川北さんの作業過程を縦軸に、山中木工の起り、師匠にあたる父・川北浩一や氷見晃堂らの作品、山中で活躍している仲間たちのさまざまな技術、彼らと始めた漆の木の植栽、地元の研究所で後継者養成にも努力している川北さんにも触れていて、ふくらみのある内容となっている。

木工芸は作業が単調で記録映画には難しい面がある。なかでも挽物は、完成まで長い時間が必要であり、制作には熟練した高度な技術が要求される割には、作業行程が淡々としていて映像として本当の姿が捉えにくい。しかしこの映画では、そうしたハンディを乗り越えて、単なる記録に止まらず、川北良造という作家の内面にまで踏み込んだ、しかも自然や仲間たちという、作者の周りの環境を取り込んで、詩情豊かな映像に仕上げられている。

何百年と生きてきた木を素材とする川北さんは、伝統的な技術に新しい工夫を加えながら、再びその生命を蘇らせようと努力する。伝統が単なる伝承ではなく、現代に生きている中から生まれるのだということが素直に実感できる。専門家にとっても重要だが、伝統工芸とは何かを考えるうえで、多くの人に鑑賞してもらいたい映画である。



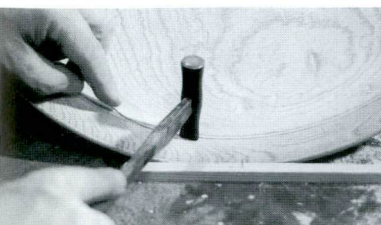
ろくろで櫛空大卓を挽く



挽き終わった器の微妙な反りは、手の感触で判断をする



拭漆で木地を固め、塗りを繰返す



盛器の縁に金の縮れ線の象嵌をする



黒柿造盛器(H.9)直径46cm×高さ8.6cm



黒杣菓子盆(H.9)28cm×23.5cm×3cm



黒柿造食籠(H.9)直径21.5cm×高さ8cm



黒柿造角食籠 16.5cm×16.5cm×10cm



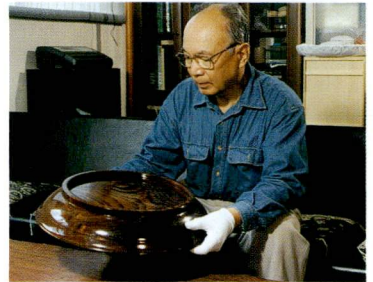
黒柿造食籠 直径19cm×高さ8cm



黒杣三足卓 直径118cm×高さ32cm

作品名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉
いのち
「木の生命よみがえる」
—川北良造の木工芸—
(35mm/カラー/34分)

企画：(財)ポーラ伝統文化振興財団
製作：(株)桜映画社
監修：白石和己



完成作品・黒柿造盛器をみる川北先生

製作スタッフ

製作 村山 和雄
脚本・監督 村山 正実
撮影 村山 和雄
木村 光男
今野 聖輝

照明 明・本橋 俊男
編集 集・吉田 栄子
ネガ編集 集・加納 宗子
音楽 楽・山崎 宏
録音 音・堀内 戦治

効果 果・帆刈 幸雄
タイトル・菁映社
現像 イマジカ
ナレーター・中西 妙子

協力

文化庁
東京国立近代美術館
石川県立美術館
石川県山中漆器産業技術センター
石川県挽物轆轤技術研修所
山中漆器伝統産業会館
滋賀県永源寺町

山中漆器ろくろ技術保存会
会長・川北良造
副会長・水上松永
福田芳雄
水上 隆
中嶋虎男
正調山中節・三代目 米八

辻本新太郎 平田秋義
辻新太郎 佐竹一夫

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture
財団法人ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル2階
TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597